

住民アンケート調査結果【概要版】

1. 調査概要

- 住民の人の移動状況を把握するために、令和3年8月に「住民アンケート調査」を実施した。
- 調査票は6,400票配布し、2,940票（約46%）の人から回答をいただいた。

< 住民アンケート調査の概要 >

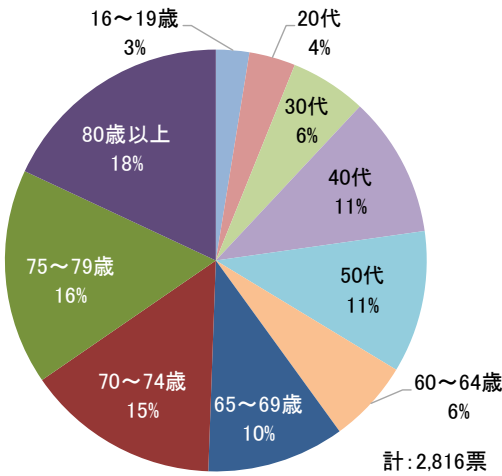
配布日		令和 3 年 7 月 31 日
回答期限日		令和 3 年 8 月 13 日
調査対象者		16歳以上
調査対象者抽出方法		調査票を自治会別に案分し、地区ごとに偏りが生じないように抽出
配布・回収状況	方 法	郵送による配布・回収
	配布数	6,400 票(あいのりいなみ登録者:460票、高齢者優待利用券交付対象者:800票、福祉タクシー利用券交付対象者:140票、その他住民:5,000票)
	回収数	2,940 票(有効票:2,816 票)
	回収率	約 46%

2. 調査結果

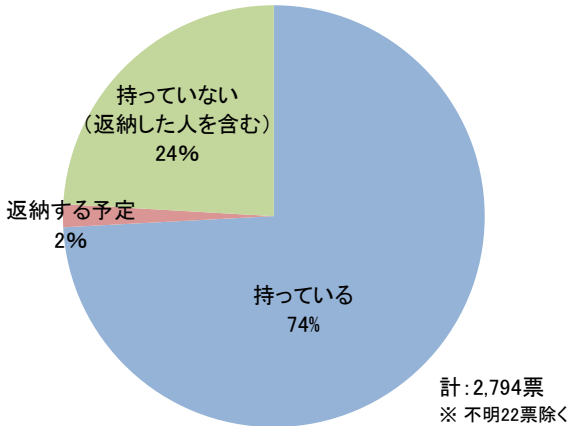
(1) 利用者の主な属性

- 住民アンケートは、30代までは全体の1割強ほどであるものの、65歳以上の回答は全体の約6割となっている。
- 回答者を住所（大字別）で見ると、は人口の多い国岡地区や六分一地区、面積の大きい加古地区などで特に多くなっている。
- 住民の約8割は現在運転免許証を所持しているものの、残りの約2割の人は所持していない状況となっている。

< 年齢 >



< 運転免許の有無 >



< 住所（大字別） >

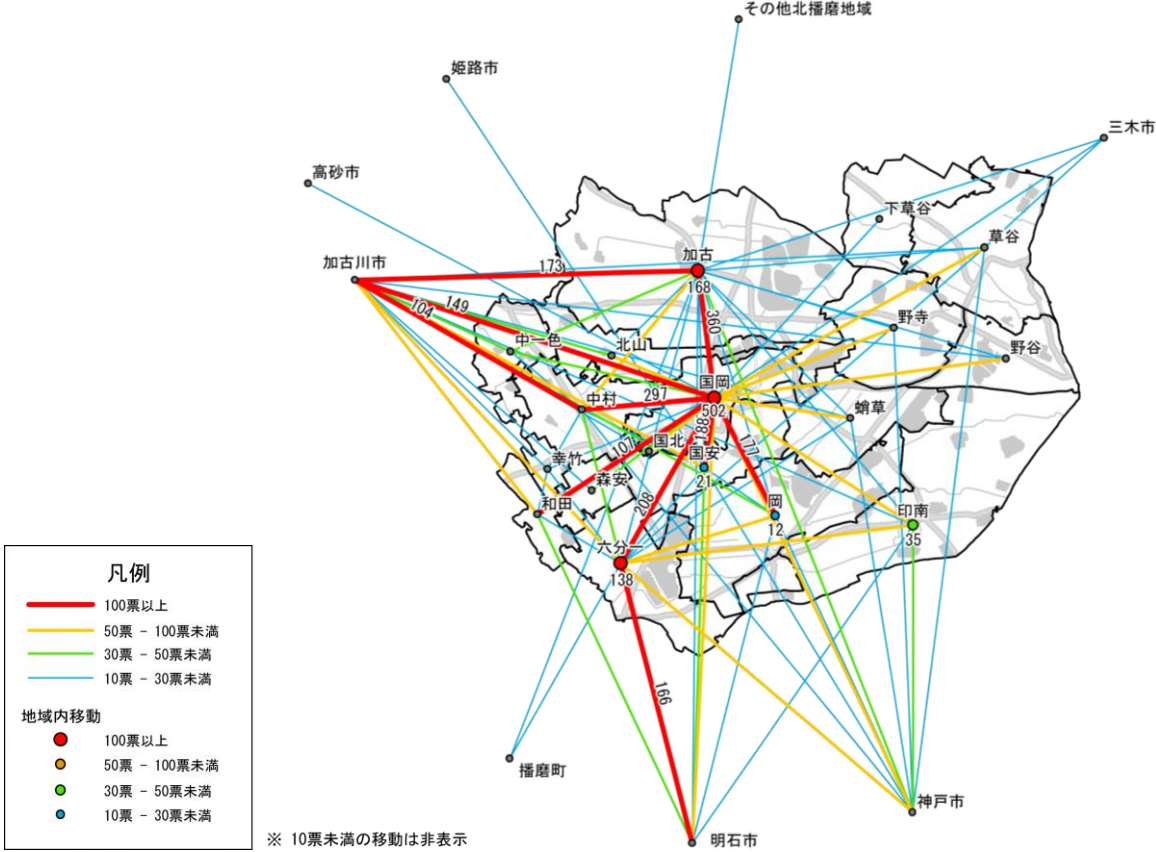
地区名	計	構成比
国岡	452	16%
加古	413	15%
六分一	384	14%
中村	285	10%
岡	201	7%
国安	193	7%
印南	167	6%
和田	153	5%
蛸草	97	3%
北山	84	3%
草谷	83	3%
国北	59	2%
野谷	59	2%
野寺	53	2%
中一色	50	2%
森安	41	1%
幸竹	24	1%
下草谷	18	1%
計	2,816	100%

(2) 稲美町民の移動状況

① 移動先

- 稲美町民の移動状況は、町の中心部である国岡地区に関連する流動が最も多くなっている。また、稲美町内での移動が多いことはもちろんのこと、隣接市町である加古川市や明石市、神戸市への移動も一定数見られる。

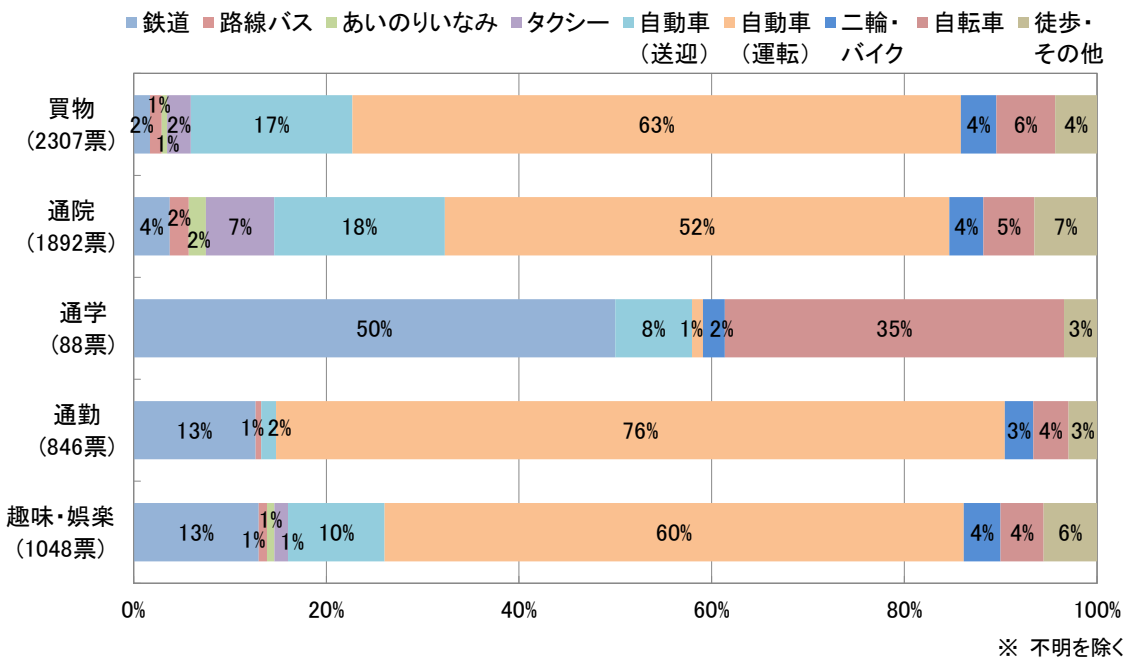
< 稲美町民の移動先 >



② 利用交通手段

- 通学を除く目的では自身で自動車を運転して移動する人が最も多く、全体の約5割～8割を占めている。一方で、路線バスやあいのりいなみの利用は全体的に少なく、1割にも満たない状況である。
- 通学においては鉄道の割合が約半数と最も多く、また自転車の利用も比較的多くなっている。

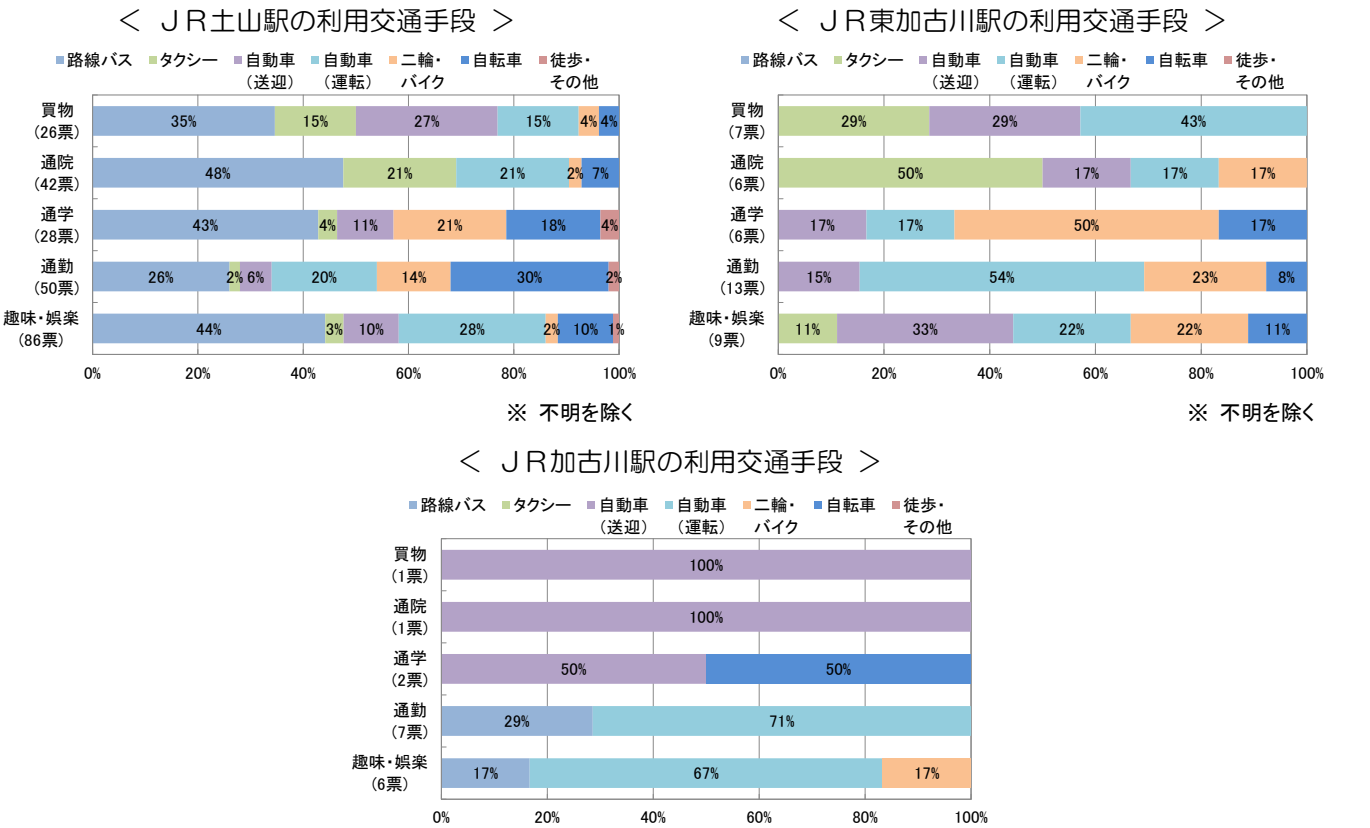
< 利用交通手段 >



住民アンケート調査結果【概要版】

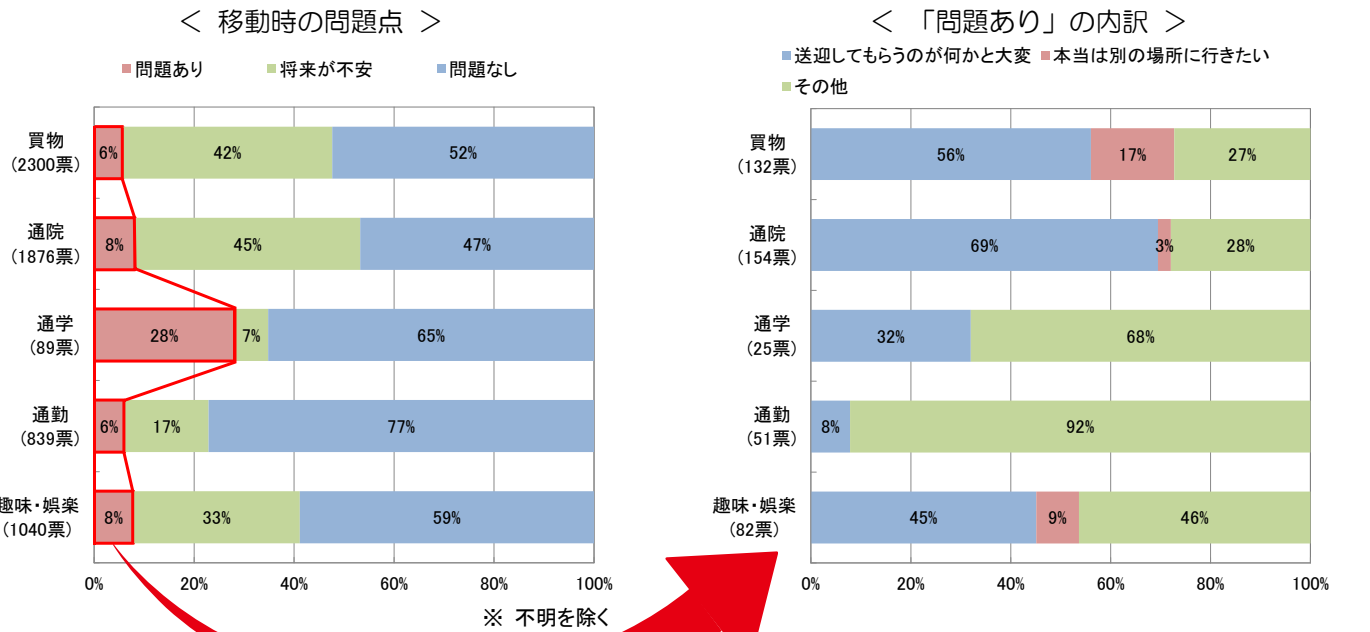
③ 駅までの利用交通手段

- ・JR 土山駅では路線バスが運行していることなどでバスの利用が多くなっている。
- ・JR 東加古川駅では、本町から東加古川駅に接続するバスが運行していないことなどから、自動車や二輪・バイク、タクシーの利用が多くなっている。
- ・JR 加古川駅では、駅に接続する路線バスは運行しているものの、自身で自動車を運転する人が多く、一部目的では自転車や徒歩、二輪・バイクの利用も見られる。



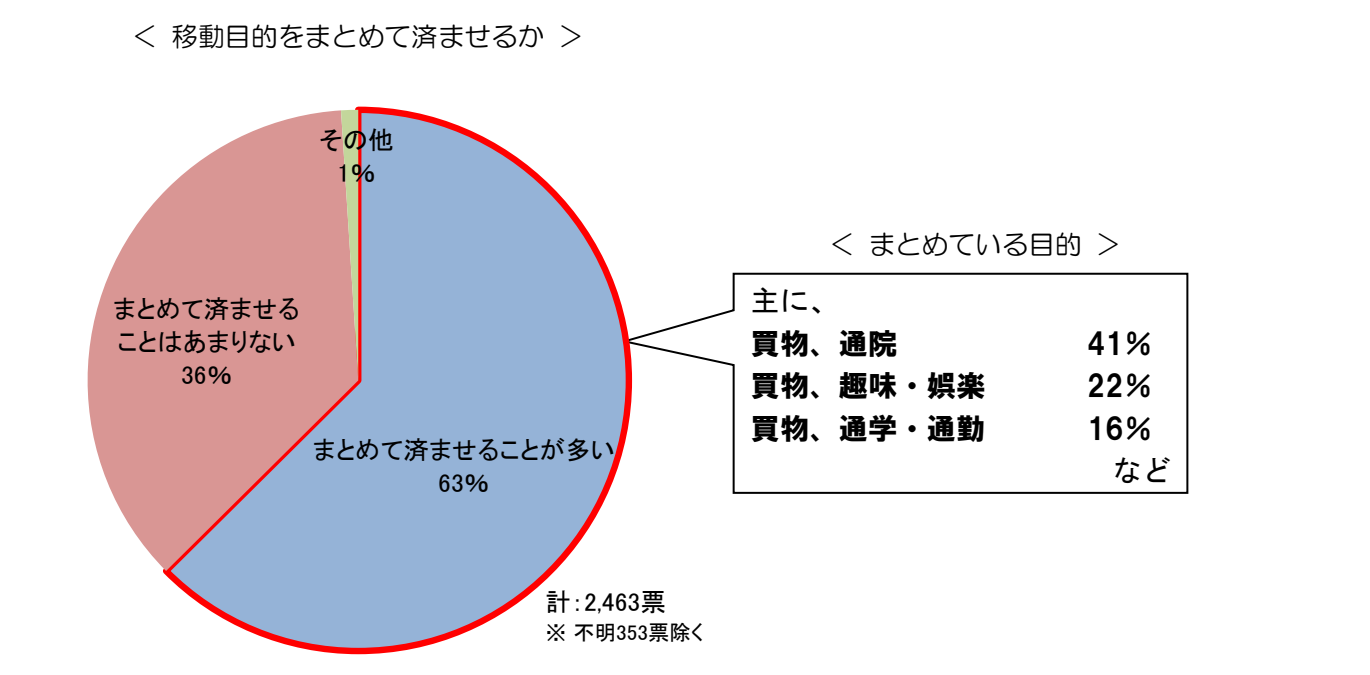
④ 移動時の問題点

- ・移動に問題を抱えている人は少なからず存在し、通学目的では約3割の人が問題意識を持っている。
- ・移動時に問題を感じている人は、目的地までの送迎に懸念を抱いている人が多くっており、特に通院目的の人は約7割を占めている。



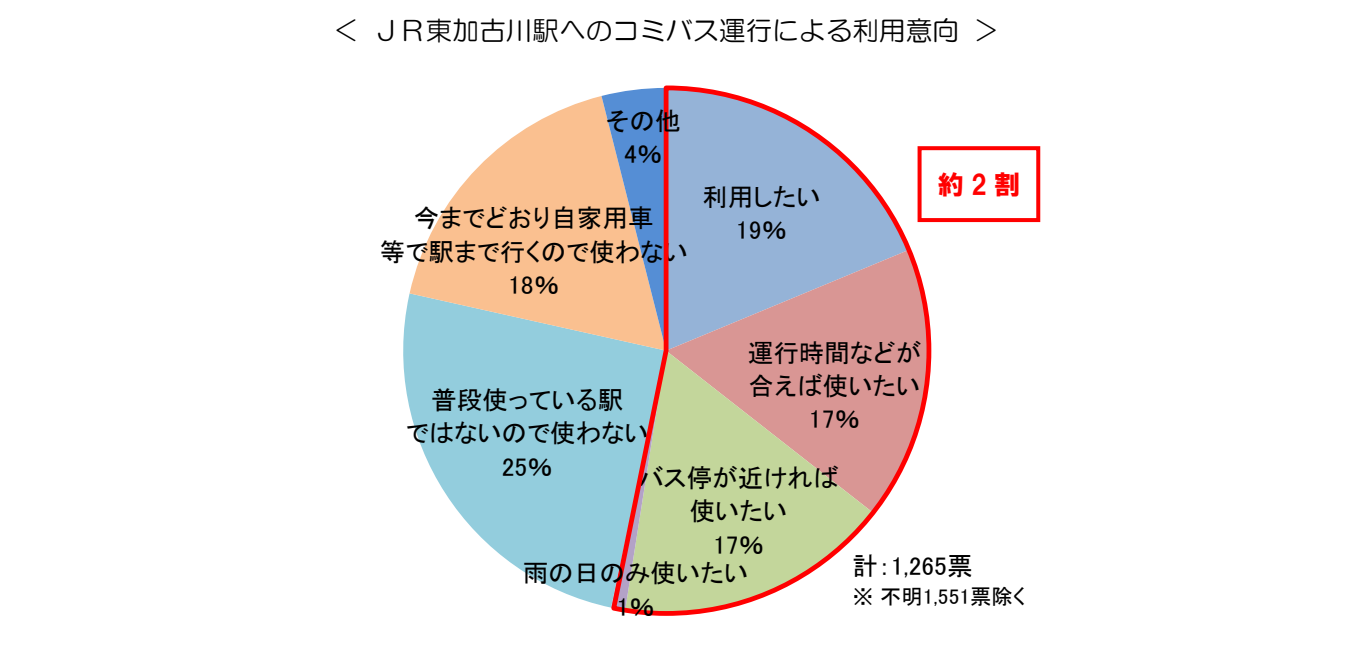
⑤ 移動目的をまとめて済ませるか

- ・1度の外出で複数の目的をまとめて済ませる人が約6割、あまりまとめて済ませない人が約4割となっており、特に「買物」「通院」をまとめている人が多くとなっている。



⑥ JR東加古川駅へのコミバス運行による利用意向

- ・JR 東加古川駅へのコミバスが運行すれば、利用したいと思っている人が約2割、条件が合えば利用したい人は約3割、使わないと答えた人は約4割となっている。

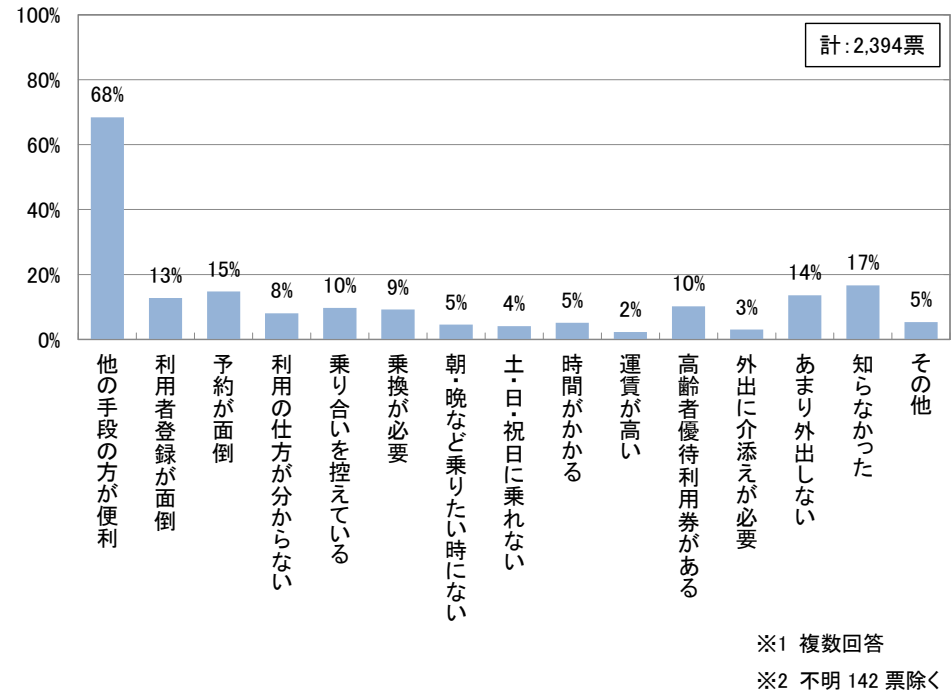


(3) あいのりいなみの利用状況

① 利用しない理由

・あいのりいなみは、「他の手段の方が便利」という理由で利用しない人が約7割と大半を占めており、その他に予約や登録が面倒という意見や、そもそも知らなかった人、昨今のコロナ禍などの影響であまり外出しないという人も比較的多くなっている。

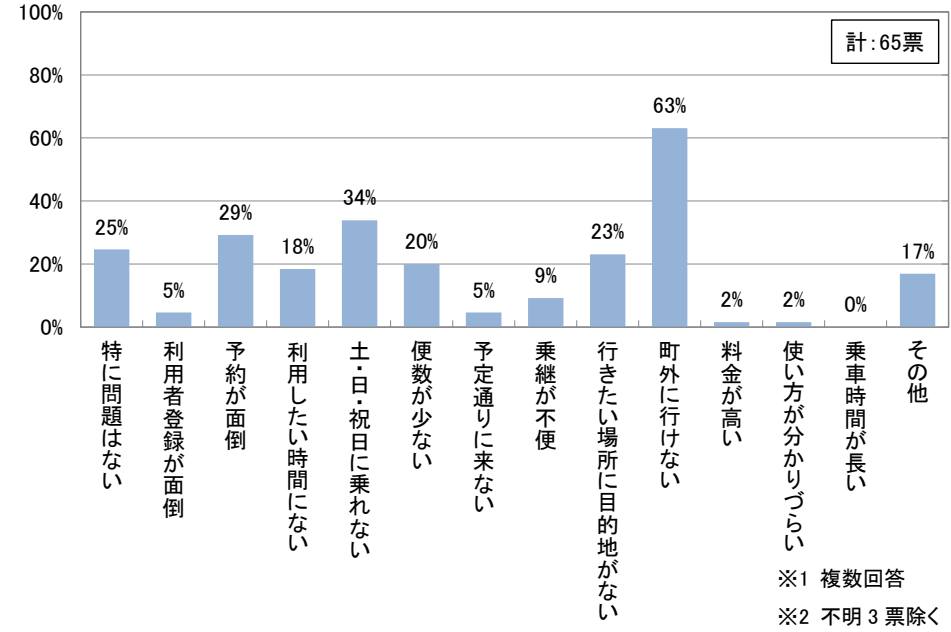
＜ 利用しない理由 ＞



② 利用時の問題点

・あいのりいなみを利用されている人が感じている問題点としては、「町外に行けない」という回答が約6割と特に多くっており、「土・日・祝日に乗れない」「予約が面倒」など運営上の問題点を挙げる人も比較的多くなっている。一方で、特に問題を感じていない人も約3割ほどいる。

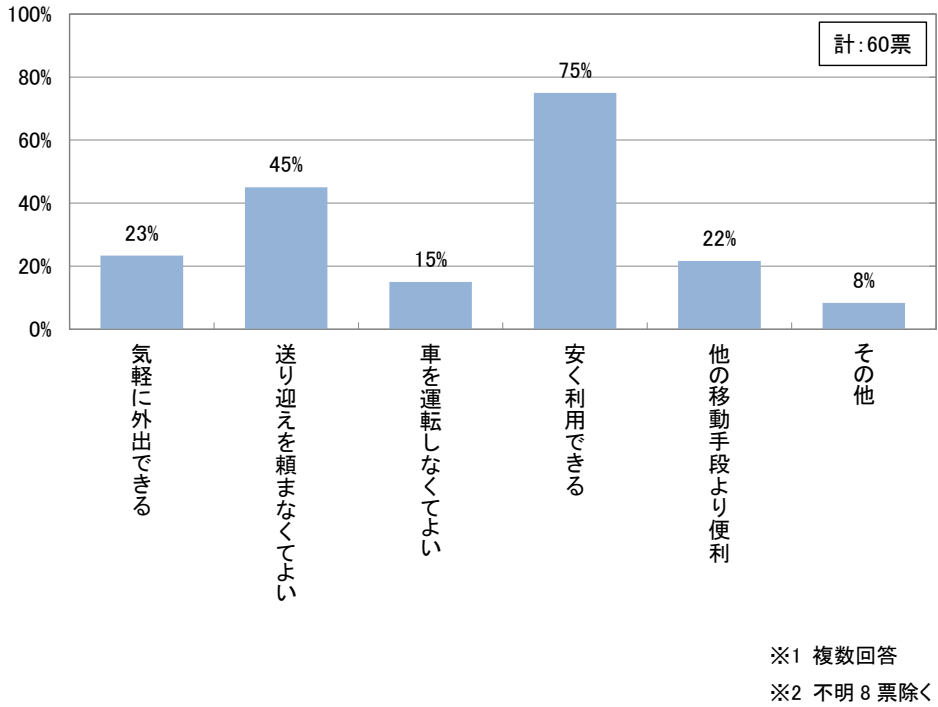
＜ 移動時の問題点 ＞



③ 利用して良かった点

・あいのりいなみを利用して良かった点としては、「安く利用できる」という回答が約8割と特に多く、利用料金に関してはある程度納得いただいていると考えられる。また、「送り迎えを頼まなくてよい」の回答も約4割強あり、あいのりいなみの運行により、気兼ねなく外出が出来るようになったと考えられる。

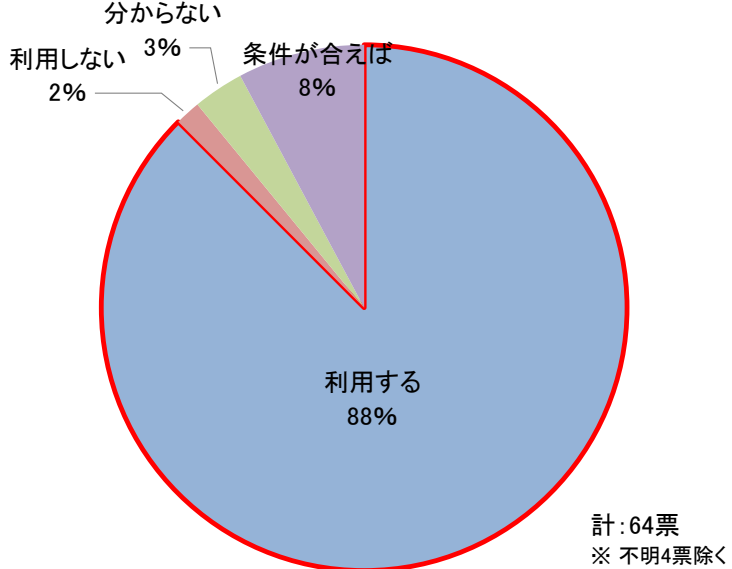
＜ 利用して良かった点 ＞



④ 社会実験終了後の利用意向

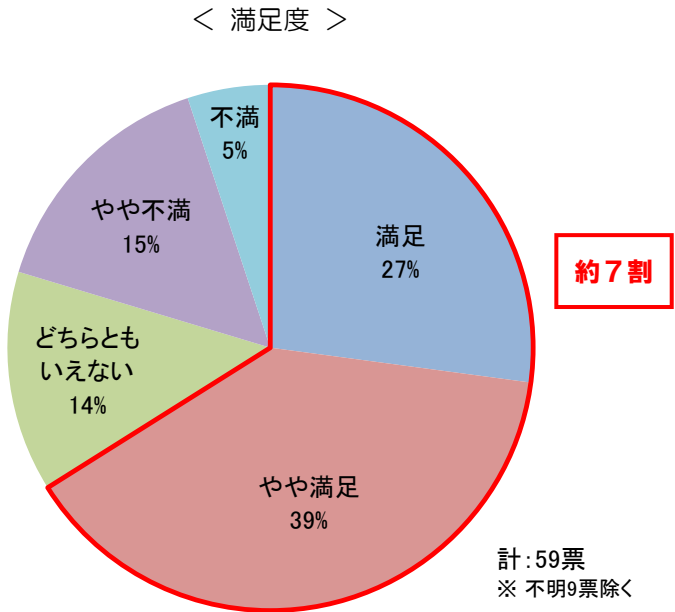
・令和3年度末に社会実験が終了し、4月より本格運行になった際には、あいのりいなみを「利用する」という人が全体の約9割を占めており、「条件が合えば」という人を含めるとほとんどの人が利用意向を示している。

＜ 社会実験終了後の利用意向 ＞



⑤ 満足度

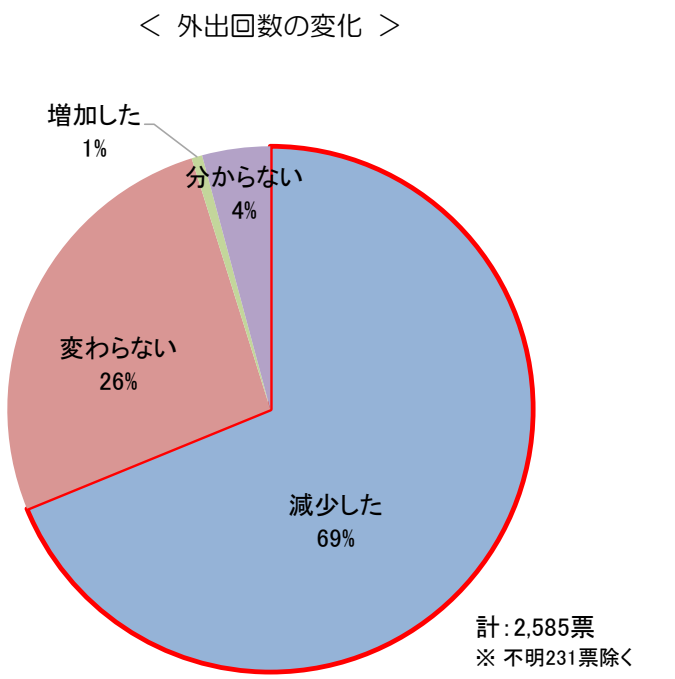
・あいのりいなみは約7割の人が満足（やや満足含む）と回答しており、先の回答で不便を感じる面もあるものの、一定満足していると考えられる。



(4) コロナ禍による外出の変化

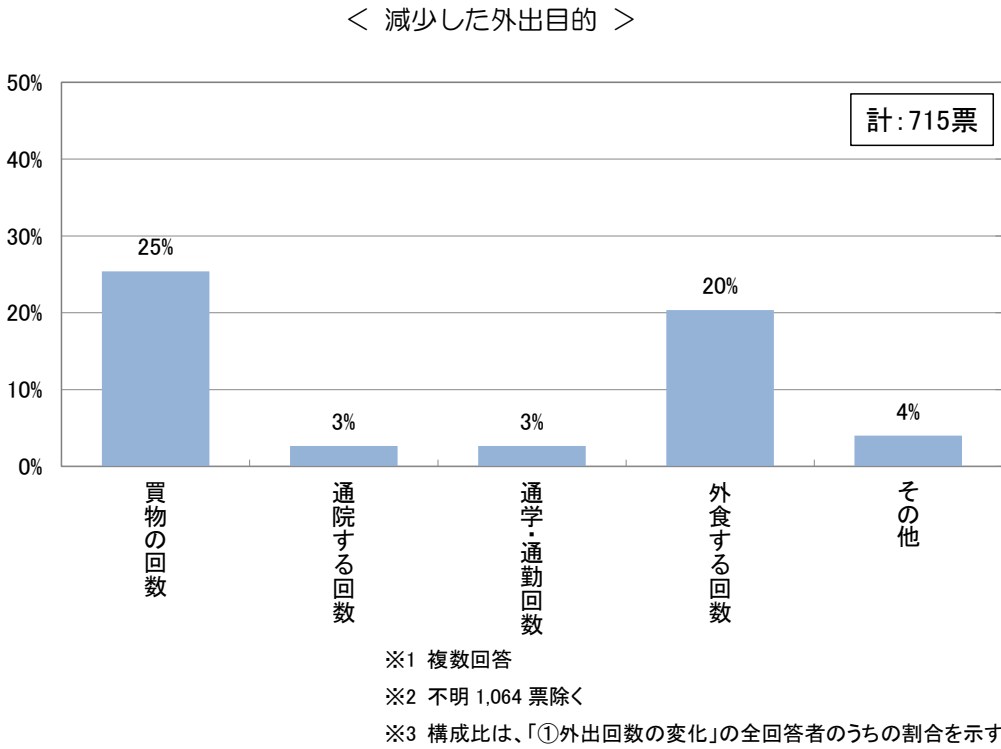
① 外出回数の変化

・コロナウイルス感染症によって、約7割の人が外出回数が減少したと回答しており、緊急事態宣言や感染拡大などの影響を大きく受けていることが分かる。



② 減少した外出目的

・コロナウイルス感染症によって「買物」や「外食」といった娯楽的な外出の頻度が減っており、一方で「通院」や「通学・通勤」などの生活する上で必須となる外出はあまり減少が見られない。



③ コロナ禍前後の外出頻度

・コロナウイルス感染症により、「週に5日以上」「週に2日以上」「週に1日以上」の1週間に1日以上外出されていた人の割合がコロナ後において大きく減少していることが分かる。
・特に通学・通勤目的においては、テレワークの発達や在宅勤務の増加により週5日以上の方が大きく減少していることが分かる。

